

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈算数〉

特別研修員 算数 中野 紗織 (小学校教諭)

単元名 『大きい数の計算を考えよう』 (第3学年) 全8時間計画

単元のねらい

3～4位数の加減法の筆算について理解し、それを適切に用いる能力を伸ばす。

学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫を取り入れた単元構想

単元を通し、買い物の場면을問題場面として設定することで、問題の把握、立式への理解を促せるようにします。であう過程では、既習事項を基に、大きい数の式の立て方を考え、本単元の「大きな数の計算」への学習意欲を高めます。追究する過程では、具体物や図、式を用いて計算方法を考える活動を通し、位ごとにそろえて計算すれば、既習の計算方法を使えることを理解できるようにします。つかう過程では、三口の加法の計算方法も筆算を使ってできるのかを考える発展的な問題に取り組ませることで、学習したことを活用できること、また身近な場面での活用方法を知り、学びの有用性を実感できるようにします。

の学習との相違点・共通点を見いだしやすくし、式を想起しやすくする。前時まで

単元を通し、問題場面を同じ場面(買い物場面)にすることで、

過程	主な学習活動
であう(1)	<p>1. 3桁同士の加法に出会う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物の問題場面から問題に対する関心、意欲を高める。 ○既習の問題を基に、単元の課題を立てる。 <p>【単元の課題】 3桁同士のたし算は、どのように計算すればよいのだろう。</p>
追究する(6)	<p>2. 3桁や4桁の加減法の筆算について既習の学びを基に具体物や図、式を用い、筆算の仕方を理解し、計算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物の問題場面から問題に対する関心、意欲を高める。 ○3桁同士の加法の計算方法についての考え方を具体物、図、式を用い、ホワイトボードに記入し、可視化する。 ○3桁同士の加法の筆算方法を考える。 ○3桁同士の減法の計算方法についての考え方を具体物、図、表を用い、ホワイトボードに記入し、可視化する。 ○3桁同士の減法の筆算方法を考える。 ○4桁同士の加減法の計算方法についての考え方についても、既習を基に具体物、図、表を用い、可視化する。 ○4桁同士の加減法の筆算方法を考える。
つかう(1)	<p>3. 本単元や前単元で学んだこと(3位数以上の加法の筆算、3口の加法)を活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○買い物の問題場面から問題に対する関心、意欲を高める。 ○学んだことを活用して発展的な課題を解決する。 <ul style="list-style-type: none"> ・$36+48+79$という3口の加法を筆算でできるのか、図や式、言葉を用いて考える。位毎に計算していることを確認する。 ○身近な活用場面を知る。

学習意欲を高める問題場面

「お菓子屋さんで買い物に行きました。〇〇〇円のクッキーと〇〇〇円のアメを買いました。代金はいくらですか。」



既習と本時の学習との相違点・共通点の明確化

1時間ごとの学習のまとめを掲示し、いつでも既習事項と本時を比較できるようにする。



学びの系統化

式を図やカードなどで表すことを単元を通し、ホワイトボードを使って共有化することで、位毎に計算する方法は筆算でできそうだと類推できるようにする。



数学の有用性の実感

レシートを見せ、加法の筆算の日常での活用場面を紹介することで、学習の有用性を高めることができるようにする。



指導のポイント

指導例：『大きい数の計算を考えよう』（第3学年 第1時）

1 新たな学習内容に触れ、めあてを立てる。

○既習事項を復習問題から確認する。

〈問題〉 365 円のパイと 27 円のマシュマロを買います。代金はいくらですか。

○問題場面や式を確認する。

S：大きい数のたし算は、筆算を使います。

○問題を把握する。

〈問題〉 365 円のパイと 472 円のケーキを買います。
代金はいくらですか。

○本時の学習と既習との違いを確認し、めあてをつくる。

T：最初の問題と似ているところや違いは何でしょう。

S：両方とも大きい数のたし算になっています。

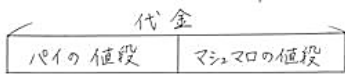
S：足される数も3桁になっています。

〈めあて〉 3桁同士の計算について考えよう。

2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。

○復習問題を基に、問題文と図、言葉、式のつながりを確認する。

S：テープ図に表しました。



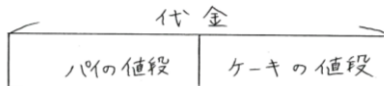
S：代金＝パイの値段＋マシュマロの値段になるからたし算になります。

3 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。

○復習問題を基に、問題場面を図や言葉に表し、式を立てる。

《児童の主な考え方》

◇テープ図を使った考え方



◇言葉を使った考え方 （代金＝パイの値段＋ケーキの値段）

4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。

T：足される数も3桁になったときも、式は立てられそうですか。

S：今までと同じように考えれば3桁になっても式にできます。

〈まとめ〉 3桁同士の計算も、今までと同じように考えればよい。

〈単元の課題〉 3桁同士のたし算は、どのように計算すればよいのだろう。

新たな学習内容に触れ、課題を追究する必要性を感じさせる

○前学年で学習した内容である3桁＋2桁と比較させることによって本時の学習と既習との違いに気付かせる。

○前学年の学習とのつながりを意識させることで「なんとなくできそうだ」という意識をもたせる。

関連する知識や技能を想起することで、見通しを十分にもたせる

○今までの学習と似ているところや解決のために使えそうな既習事項を学級全体で考えさせることで、全ての児童が3桁同士の加法の解決の見通しをもてるようにする。

復習問題を基に立式することで、学習の系統性に気付かせる

○前学年までの方法を基に、式を立てることで、3桁でも2桁の時と同じように式を立てられることに気付くことができるようにする。

単元の課題を見いださせる

○本時を振り返ることで、「数が大きくなっても、既習の考え方を使えばできそうだ」という意識をもたせ、次時につなげることができるようにする。

指導のポイント

指導例：『大きい数の計算を考えよう』（第3学年 第5時）

1 学習を把握し、めあてを設定する。

○復習問題から、既習事項を確認する。

〈問題〉 27 円のマシュマロを買うのに、レジで 100 円を出しました。
おつりはいくらですか。

○問題を把握する。

〈問題〉 265 円のゼリーを買うのに、レジで 1000 円札を出しました。
おつりはいくらですか。

○本時の学習と既習との違いを確認し、めあてをつくる。

T：復習問題と違うところはどこでしょう。

S：前は、一と十の位が0だったけど、今回は百の位も0になっています。

〈めあて〉 ひかれる数の一、十、百の位が0のとき、答えを求めるには
どうしたらよいのだろうか。

○答えの予想と解決への見通しを立てる。

S：答えは大体 800 円より小さくなりそうです。

S：数カードや図で考えれば答えが分かります。

2 めあてを追究する。

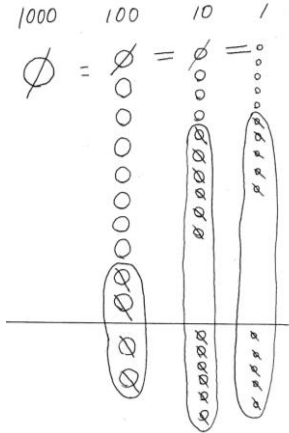
(1) 個別に追究し、解決方法や結果を全体で共有する。

《児童の主な考え方》

◇数カードを使った考え方



◇図を使った考え方



(2) 考えを深める。

○ペアで考えを伝える。

○共通点を見付ける。

S：位ごとにまとめて、計算している。

S：千から百、百から十、十から一の位へと順番に繰り下げている。

3 学習をまとめる。

〈まとめ〉 千の位から百の位、百の位から十の位、十の位から一の位へと順番に繰り下げて計算すればよい。

○数カードや図から筆算の波及的な繰り下げを理解する。

4 学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

〈適用問題〉 $1000 - 140 = 960$ の間違いを見付け、なぜ間違えたかを説明
しましょう。

S：引かれる数の百の位は十の位に1貸しているのに、それを忘れていました。

S：答えの百の位が間違えている。百の位から十の位への繰り下げを忘れてしまっているから。

問いを生み出すための
発問の工夫

- 前時に学習した内容と比較させることによって前時との違いに気付かせる。
- 前時や前学年の学習とのつながりを意識させることで「2桁の考えを使えばできそうだ」という意識をもたせる。

関連する知識や技能を想起することで、見通しを十分にもたせる

- 答えの見積もりを立てたり、解決への見通しをクラス全体で考えさせたりすることで、全ての児童が解決方法や結果の見通しをもてるようにする。

ペア学習を取り入れることで、
自分の考えを整理させる

- ペア活動を取り入れることで、自分の考えを整理し、相手に伝えられるようにする。
- 自他の考えを比較・検討することによって分からないところを質問したり、説明したりすることで波及的な繰り下げがある減法についての考えを高める。

共通点を見付けることで、
筆算の計算方法に気付かせる

- 共通点をまとめることで、どの考え方も、位ごとに計算する筆算の方法であると気付くことができるようにする。

適用問題を行うことで
本時の理解の定着を促す

- 間違いを言葉で説明することで、波及的な繰り下げの理解を深めることができるようにする。

指導のポイント

指導例：『大きい数の計算を考えよう』（第3学年 第8時）

1 学習を把握し、めあてを設定する。

○既習事項をまとめた掲示物から既習事項を想起する。

S：大きい数の筆算は、位をそろえて、一の位から計算すればできる。

○問題を把握する。

〈問題〉36 円のアメと、48 円のキャラメルと、73 円のクッキーを
買うと、代金はいくらになりますか。

○式や大体の答えの見通しを立てる。

S：式は、 $36+48+73$ になります。

S：答えは、大体 200 円より小さくなると思います。

○本時の学習と前時の学習との違いを確認する。

T：今までと違うところは、どこでしょう。

S：三つの数を足しています。

S：筆算が二回になっています。

S：筆算が二回だと大変です。

○既習事項を基に、子供の言葉からめあてをつくる。

〈めあて〉三つの数のたし算を一度に筆算することはできるのだろうか。

○解決の見通しをもつ。

T：筆算ができるかどうか確認するために、どのような方法がありますか。

S：図で確認すれば、筆算でできるか確認できます。

S：数字を位ごとに考えれば、筆算でできるか確認できます。

2 めあてを追究する。

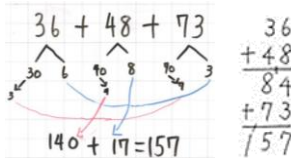
(1) 個別に追究し、解決方法や結果を全体で共有する。

○具体物や図に表し、課題を追究する。

《児童の主な考え方》

◇図を使った考え方

◇今までの筆算を使った考え方



(2) 考えを深める。

○共通点を見付け、共通点が筆算のきまりになっていることに気付く。

S：位ごとに分けています。

S：一の位から計算すると繰り上がりが間違えづらい。



3 学習をまとめる。

○気付いたことをまとめる。

〈まとめ〉三つの数を足すときも、今までの筆算のように、位ごとそろえ、一の位から計算すれば一度に筆算することができる。

4 学習を振り返る。

T：今は、三つ買ったけど、四つ買っても一度に筆算できますか。

S：四つでも一度に筆算できます。幾つ買っても一度に筆算できます。

S：たし算はできるけど、ひき算はできません。

○レシートを見て、日常の中の活用場面を知る。

S：（レシートには）たくさんの商品を買っている。

S：さっきの筆算を使っている。

〈単元全体の振り返り〉筆算は他にもどんな場面で使われているのだろう。

単元で学んだことを活用できる問題を設定する

○単元を通した問題場面にする
ことで「図や式、カードを使えば
できそうだ」という意識をもたせる。

個別解決の手立てとなるように、
答えの見積もりを立てさせる

○式を立てることで、問題場面と式
の関連性が見えなくなってしまう
児童がいるため、見通しを立てる
ことで問題と式を関連付けたり、
3口の加法への解決の手立てとし
たりできるようにする。

筆算方法を確認するために、
共通点を見付けさせる

○共通点を見付けることで、図やカ
ードを使った方法と筆算方法を結び
付けることができるようにする。

発展的な課題を設定することで、
学習を深めさせる

○教師の発問から「四つ買ったら」と
いう場面を設定することで、本時の
学びをさらに深める。

日常場面と関連付けられるよう
に、身近な活用場面を紹介する

○本時の課題の日常の活用場面であ
るレシートを紹介することで、日
常の活用場面を知り、算数を学ぶ
意義や身の回りの算数への関心を
高めることができるようにする。

算数科学習指導案

令和元年6月 第3学年 指導者 中野 紗織

I 単元名 「大きい数の計算を考えよう」

II 学習指導要領上の位置付け

第3学年 A数と計算 A(2)加法、減法

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。

(イ) 加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。

III 目 標

加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア、イは、「II 学習指導要領上の位置付け」に同じ

ウ 2位数の加法及び減法の筆算の手順を適用して、3位数以上の加法や減法の筆算方法を考察したり、数量の関係に着目したりすることで、3位数以上の加法及び減法の筆算方法を見だし、問題解決に生かそうとしている。(学びに向かう力、人間性等)

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1/8 であう）

1 ねらい 買い物で代金を求める場面において、図や言葉の式を用いて表現する活動を通して、3位数でも2位数までの計算を基にしていることに気づき、単元の課題を見いだすことができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 新たな学習内容に触れ、めあてを立てる。（10分）</p> <p>○買い物場面を提示し、何を買うか問うことで、本時の学習への興味・関心を喚起する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈問題①〉 365 円のパイと 27 円のマシュマロを買います。代金はいくらですか。</p> </div> <p>○問題①のような復習問題から大きい数の計算には筆算を使ったことや筆算の手順を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈問題②〉 365 円のパイと 472 円のケーキを買います。代金はいくらですか。</p> </div> <p>（問い）問題①とどこが違うかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈めあて〉 3けた同士の計算について考えよう。</p> </div>			
<p>2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。（5分）</p> <p>○問題①から、$\boxed{\text{代金（円）}} = \boxed{\text{商品の値段（円）}} + \boxed{\text{商品の値段（円）}}$となっていることを確認する。</p> <p>○言葉と図、式のつながりを意識できるよう問題①をテープ図を使って表す考えを共有する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div>			
<p>3 新たな学習内容と関連する既習の内容との共通点や相違点を見いだす。（5分）</p> <p>○テープ図や言葉の式から、3桁同士になっても、代金を求めるには、加法の式が成り立つことを全体で確認する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3位数同士の加法について、2位数の加法の場面と比べて考え、言葉の式やテープ図と関連付けて式に表している。〈ノート・発言(1)〉</p> </div>			
<p>4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。（5分）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈まとめ〉 3桁同士の計算も、今までの考え方を使って考えればよい。</p> </div> <p>☆3桁同士の計算も、2桁と同様にたし算の式にしてよいことが分かった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈単元の課題〉 3桁同士のたし算の筆算は、どのようにすればよいのだろうか。</p> </div>			

※残り 20 分は「追究する」過程に進む。

V 本時の展開 (5/8 追究する)

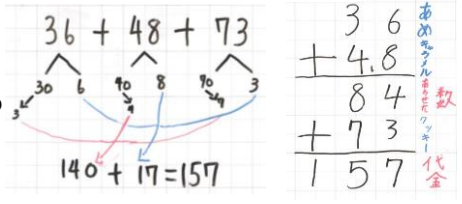
1 ねらい 1000－3位数の筆算の計算方法を具体物や図を基にして考える活動を通して、千の位から波及的に繰り下がる減法の筆算方法を説明できるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 学習を把握し、めあてを設定する。(7分)</p> <p>○既習の空位のある減法を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>〈問題①〉 27 円のマシュマロを買うのに、レジで 100 円を出しました。おつりはいくらですか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>〈問題②〉 265 円のゼリーを買うのに、レジで 1000 円札を出しました。おつりはいくらですか。</p> </div> <p>○既習の問題との相違点を見付けることができるよう問題文から式を立てるよう促す。</p> <p>(問い) 前の問題と違うところはどこかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> <p>〈めあて〉 引かれる数の一、十、百の位が0のとき、答えを求めるにはどうしたらよいのだろうか。</p> </div> <p>○見通しをもって問題に取り組めるよう、大体の答えを問う。</p> <p>(1000－300＝700、大体700円。)</p>			
<p>2 めあてを追究する。(25分)</p> <p>(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。</p> <p>○図や絵で考える方法、位取り表で考える方法を見通しとして全体で確認し、課題解決に使う方法を問う。</p> <p>○2年生で学習したことを生かし、具体物や図などを用いて計算の仕方を考えるよう促し、個人で問題解決に取り組む時間を設定する。</p> <p>○自分の考えを整理できるようペアで話し合いの時間を設定する。</p> <p>(2) 考えを深める。</p> <p>○全体で答えを確認するとともに、考え方を伝え合う活動を設定する。</p> <p>○千の位から百の位、百の位から十の位、十の位から一の位へと繰り下がることを理解できるように具体物と図の共通点を見付ける活動を設定する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>既習事項を活用して、波及的な繰り下がりのある減法の筆算方法を大きい位から順に繰り下げて計算すればよいことを説明している。〈ノート、発言(2)〉</p> </div>			
<p>3 学習をまとめる。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈まとめ〉 千の位から百の位、百の位から十の位、十の位から一の位へと順番に繰り下げて計算すればよい。</p> </div>			
<p>4 学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。(10分)</p> <p>〈適用問題〉 $1000 - 140 = 960$ の間違い見付け、なぜ間違えたかを説明しましょう。</p> <p>☆引かれる数の千から百、百から十、十から一の位に繰り下げれば、計算できる。</p>			

V 本時の展開 (8/8 つかう)

- 1 ねらい 3口の加法を具体物や図を基に考える活動を通して、3口の加法の筆算の仕方を既習の筆算を基に説明できるようにする。
- 2 展開

学習活動 (分) ○ : 留意点 点線囲 : 評価 ☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 学習を把握し、めあてを設定する。(15分)</p> <p>○既習事項をまとめた掲示物を確認し、既習事項を想起できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈問題〉 36 円のアメと、48 円のキャラメルと、73 円のクッキーを買うと、代金はいくらになりますか。</p> </div> <p>○式を全体で立てることで3口の計算になっていることを確認する。</p> <p>○見通しをもって問題に取り組めるよう、大体の答えを問う。</p> <p style="margin-left: 20px;">(40+50+80= 170、 170 より小さい。)</p> <p>○既習事項から2回に分ける筆算でできることを確認してから、全体で答えを確認する。</p> <p>(問い) 三つの数のたし算を、筆算できるのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈めあて〉 三つの数を足すときに、一度に筆算することはできるのだろうか。</p> </div>
<p>2 めあてを追究する。(25分)</p> <p>(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。</p> <p>○具体物や図を使い、計算の仕方を考えられるよう前時までの解決の見直しを確認する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>〈児童の考え方の例〉</p>  </div> <p>○戸惑っている児童には3段になっている位取り表を用意し、数カードを使って考えるよう促す。</p> <p>○自分の考えを整理できるよう個人で課題を解決した後に、ペアで話合いの時間を設定する。</p> <p>(2) 考えを深める。</p> <p>○答えを確認するとともに、自分の考えと友達の考えの共通点を発見できるよう、互いの考えを説明し合う活動を設定する。</p> <p>○具体物や図の考え方で10のまとまり「位ごとに計算すること」「繰り上がりを考えられるように一の位から計算すること」といった共通点を確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>既習事項を活用して、3口の加法の筆算も今までと同じように位ごとに一の位から計算すればよいことを説明している。 〈ノート、発言(2)〉</p> </div>
<p>3 学習をまとめる。(3分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈まとめ〉 三つの数を足すときも、今までの筆算のように、位ごと一の位から計算すればできる。</p> </div> <p>☆三つの数のたし算も、今まで通りの方法を使えば、一つの筆算で計算できることが分かった。</p>
<p>4 学習を振り返る。(2分)</p> <p>○身の回りで使われている例として、レシートを見せる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〈単元全体の振り返り〉 筆算は他にもどのような場面で使われているのだろう。</p> </div>

指導計画 算数科 第3学年 単元名「大きい数の計算を考えよう」(全8時間計画)

<p>目標</p>	<p>加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア (知識及び技能)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3位数や4位数の加法及び減法の計算が、2位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解すること。 ・加法及び減法の計算が確実にでき、それらを適切に用いること。 <p>イ (思考力、判断力、表現力等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすること。 <p>ウ (学びに向かう力、人間性等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2位数の加法及び減法の筆算の手順を適用して、3位数以上の加法や減法の筆算方法を考察したり、数量の関係に着目したりすることで、3位数以上の加法及び減法の筆算方法を見だし、問題解決に生かそうとしている。 			
<p>評価規準</p>	<p>(1) 数の仕組みに着目したり既習の筆算の仕方を活用したりして、3～4位数の加減法の筆算の仕方を考えようとしている。</p> <p>(2) 3～4位数の加減法の筆算の仕方を、2～3位数の場合を基に類推して、図や式などを用いて表現し、筆算の仕方を一般化してまとめることができる。</p> <p>(3) 3～4位数の加減計算を筆算の手順を基にして、計算が確実にできる。</p> <p>(4) 3～4位数の加減計算は、2位数などの基本的な計算を基にしてできていることを理解し、それらの筆算の仕方について理解している。</p>			
<p>過程</p>	<p>時間</p>	<p>○ねらい めあて</p>	<p>☆振り返り(意識)</p>	<p>◇評価項目 〈方法(観点)〉</p>
<p>であう</p>	<p>1</p>	<p>○買い物で代金を求める場面において、図や言葉の式を用いて表現する活動を通して、3位数でも2位数までの計算を基にしていることに気づき、単元の課題を見いだすことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3桁同士の計算について考えよう。</p> </div> <p>○3位数同士の加法を具体物や図を使って考える活動を通し、2位数の加法の筆算の仕方を使って計算すればよいことを説明できるようにする。</p>	<p>☆3桁同士の計算も、2桁と同様にたし算の式にしてよいことが分かった。</p> <p>☆3桁+3桁の筆算も、位ごとに一の位から順に計算すればできる。</p>	<p>◇3位数同士の加法について、2位数の加法の場面と比べて考え、言葉の式やテープ図と関連付けて式に表している。 〈ノート・発言(1)〉</p> <p>◇既習事項を活用して、3位数の加法について、これまでの筆算の仕方を使って計算すればよいことを説明している。 〈ノート、発言(2)〉</p>
<p>追究する</p>	<p>1 1 1 1</p>	<p>○3位数同士や3位数と2位数の加法の筆算をする活動を通して、筆算の仕方を理解し、計算できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3桁の数が入った、たし算の筆算はどのようにすればよいのだろうか。</p> </div> <p>○買い物で残りの金額を求める場面において、3位数の減法の筆算の仕方を図や位取り表を使って考える活動を通し、3位数-3位数の筆算の仕方を理解できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3桁-3桁のひき算は、どのように答えを求めればよいのだろうか。</p> </div> <p>○3位数-3位数の筆算方法を理解し、計算できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>3桁のひき算の筆算で間違えないようにするには、どんなことが大切か。</p> </div> <p>○1000-3位数を引く計算方法を具体物や図を基にして考える活動を通して、千の位から波及的に繰り下がる減法の筆算方法を説明できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>引かれる数の一、十、百の位が0のとき、答えを求めるにはどうしたらよいのだろうか。</p> </div>	<p>☆今までの2桁の筆算の仕方を使えば、3桁のたし算の筆算もできる。</p> <p>☆3桁-3桁も、今までの2桁の筆算の仕方を使えば計算できる。</p> <p>☆一の位から計算して、繰り下がりを忘れないように計算することが大切だと分かった。</p> <p>☆千から百、百から十、十から一の位に繰り下げれば、計算できる。</p>	<p>◇2位数の加法の筆算方法を使って、3位数の加法の筆算ができる。〈ノート、発言(3)〉</p> <p>◇既習事項を活用して、3位数-3位数の筆算の仕方を理解し、計算している。 〈ノート、発言(4)〉</p> <p>◇3位数-3位数の計算を筆算の手順を基に計算している。 〈ノート、発言(3)〉</p> <p>◇既習事項を活用して、波及的な繰り下がりのある減法の筆算方法を大きい位から順に繰り下げて計算すればよいことを説明している。 〈ノート、発言(2)〉</p>

	1	<p>○4位数を含む加減計算の仕方を理解し、その計算をすることができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>1000 より大きい数のたし算やひき算の筆算は、どう計算すればよいのだろうか。</p> </div>	<p>☆4桁のたし算、ひき算の筆算も今までの筆算の方法を使えば計算できる。</p>	<p>◇既習の3桁の筆算方法を基に筆算している。 〈ノート、発言(1)〉</p>
	1	<p>○4位数±4位数の計算の仕方を確実に身に付けられるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>4桁が入った筆算を正しく計算するには、どうしたらよいのだろうか。</p> </div>	<p>☆大きい数になっても、位をそろえて、一の位から順に計算すれば正しく計算できる。</p>	<p>◇筆算の手順を基にして、4位数が入った加減の計算をしている。〈ノート、発言(3)〉</p>
つかう	1	<p>○3口の加法を図や位取り表を基に考える活動を通して、3口の加法の筆算の仕方を既習の筆算を基に説明できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>三つの数を足すときに、一度に筆算することはできるのだろうか。</p> </div>	<p>☆三つの数のたし算も、今まで通りの方法を使えば、一つの筆算で計算できることが分かった。</p>	<p>◇既習事項を活用して、3口の加法の筆算も今までと同じように位ごとに一の位から計算すればよいことを説明している。 〈ノート、発言(2)〉</p>